

日本写真俳句大賞 公式攻略ブック

森村誠一の 「コンテストで選ばれる作品」 三つの魔法



逝く人に
声なき君の
茜雲



監修: 森村誠一

編集・発行: 写真俳句連絡協議会

選考委員はここを見る！セルフチェック5項目

【主題】何を撮りたいか、一目でわかりますか？

- 余計なものが写り込み、主役がぼやけていませんか？
（「引き算」の確認）

【余白】言葉が入る「隙間」が写真にありますか？

- 写真が完璧すぎると、俳句の入る余地がなくなります。
（「余白」の確認）

【距離】写真に写っているものを、そのまま句で説明していませんか？

- 「赤い花が咲いている」という報告ではなく、そこから感じた「心」を詠みましょう。

【季語】季語にこだわりすぎて、本音を隠していませんか？

- 写真に季節を預けて、あなたの「今の気持ち」を優先しましょう。

【着地】最後の下五(しご)に、あなたの発見がありますか？

- 当たり前の結びではなく、読者の心にひっかかる「自分だけの言葉」を選びましょう。

NG

庭先に赤い椿が咲いている



なぜ「惜しい」のか？

写真を見れば「赤い椿が咲いている」ことは一目瞭然です。映像と心がつながっておらず、単なる「状況の報告」にとどまっているため、読者の心に響く「化学変化」が起きていません。

はじめに ― 人生を二倍にする「魔法の杖」をその手に

あなたの日常は、物語に満ちている。

ようこそ、写真俳句の世界へ。

このテキストを手にとられた皆さんは、「もっと良い作品を作りたい」「自分の感動を形にしたい」という情熱をお持ちのことでしょう。

写真俳句とは、作家・森村誠一先生が提唱された、写真と五・七・五を組み合わせる新しい表現です。森村先生は、カメラを持って外に出るという一見シンプルな行為が、私たちの人生を劇的に変えると確信されていました。なぜなら、レンズを通して世界を見ることで、見慣れた散歩道が「発見とドラマの宝庫」に変わるからです。

芸術家ではなく「冒険家」になろう

「自分はカメラの初心者だから」「俳句のルールが難しくて」と気後れする必要はありません。森村先生は「写真俳句に芸術性はいらない」と仰いました。大切なのは、上手く作るのではなく、あなたの心が動いた「その瞬間」を留めることです。

コンテストは「自分への招待状」

今回、過去の応募者の皆様に向けて、森村先生が大切にされていた極意を改めて整理しました。このテキストは、単なる技術解説書ではありません。あなたの手にあるスマートフォンを、人生を鮮やかに彩る「魔法の杖」に変えるためのガイドブックです。

さあ、ページをめくってください。次に日本写真俳句大賞のステージに立つのは、あなたかもしれません。

第1の極意 — 写真は「引き算」と「余白」

「芸術」ではなく「記録」のその先へ

森村先生は「写真俳句に芸術性はいらない」と断言されました。大切なのは、あなたの心が動いた瞬間を留めることです。

勇気を持って「引き算」する

初心者はい、目に映るすべてを写そうとしてしまいます。しかし、コンテストで目を引くのは、主役が明確な作品です。

- 一歩前へ出る。
- ズームを使う。
- 余計な看板や電柱をフレームから外す。

これだけで、あなたの伝えたいことが真っ直ぐに伝わります。

俳句のための「舞台」を作る

写真は作品の半分に過ぎません。残りの半分は「言葉」です。写真の中に、俳句がゆったりと座れる「余白」を作ってください。空の広がり、地面の静けさ。その何も写っていない空間こそが、読者の想像力をかき立てる「舞台」になります。

NG

公園の家族楽しき春の午後



なぜ「惜しい」のか？

画面の中に情報が多すぎて、作者がどこに一番感動したのか(主題)が伝わりません。主役を一つに絞り、余計なものを外す「引き算」ができていないため、俳句が写真の中に埋もれてしまっています。

第2の極意 ― 写真と句の「掛け算」で化学変化を起こす

写真を言葉で説明していませんか？

良い写真俳句とは、写真と俳句が合わさった瞬間に、単体では表現できなかった「第三の世界」が立ち上がることです。

- ・ 足し算(避けるべき例): 赤いリンゴの写真に「真っ赤だなつやつや光るこのリンゴ」と添える。これでは写真を見ればわかることの繰り返しです。
- ・ 掛け算(目指すべき姿): 映像(客観的事実)と、言葉(主観的な感情)がぶつかり合う距離感を意識しましょう。お互いが「付かず離れず」の関係。

「季語」は写真に預けてしまおう

俳句のルール(季語)を大切にすることも重要ですが、写真俳句には「写真」という最強の味方がいます。

- ・ 満開の桜の写真があれば、言葉で「春」と言う必要はありません。
- ・ 季節の描写を写真に任せる(預ける)ことで、言葉はもっと自由になれます。
- ・ 空いたスペースに、あなたの「本音」や「ユーモア」を乗せてみてください。

恋猫やどのツラ下げて戻りたる



【映像(客観的)】:

満開の桜の下、少し薄汚れた野良猫が、ふてぶてしい表情で座っている。

【言葉(主観的)】:

春の季語「恋猫(猫の恋)」を使いつつ、帰ってきた猫への呆れと愛着を本音(ユーモア)で詠む。

【化学変化】:

桜(春)の描写を写真に任せることで、言葉は「猫のドラマ」に集中できる。単なる「桜と猫」の写真ではなく、猫の「人生(猫生)」を感じさせる「第三の世界」が立ち上がっている。

good!

第3の極意 ― 最後の一言(下五)で、作品に魂が宿る

下五は作品の「アンカー(錨)」

五・七・五の最後の五文字は、作品の運命を決定するほど重要です。上が平凡でも、下五に鋭い言葉が置かれると、作品全体がパッと輝き出します。

「報告」を「表現」に入れ替える練習

初心者の多くは、下五を単なる状況の「報告」で終わらせてしまいます。



散歩道 赤い椿が 咲いている

報告の句：これでは写真の説明に過ぎません。

散歩道 赤い椿の 重たげに

表現の句(1)：花の重みや、情念が伝わってきます。

散歩道 赤い椿に 風のいろ

表現の句(2)：目に見えない風を感じさせる「発見」があります。

迷ったら、いくつか下五を「着せ替えて」みてください。その中で、自分の心が一番震えたポイントを最後の一言に託すのが入賞への近道です。

散歩の極意 — 感受性のアンテナを立てる

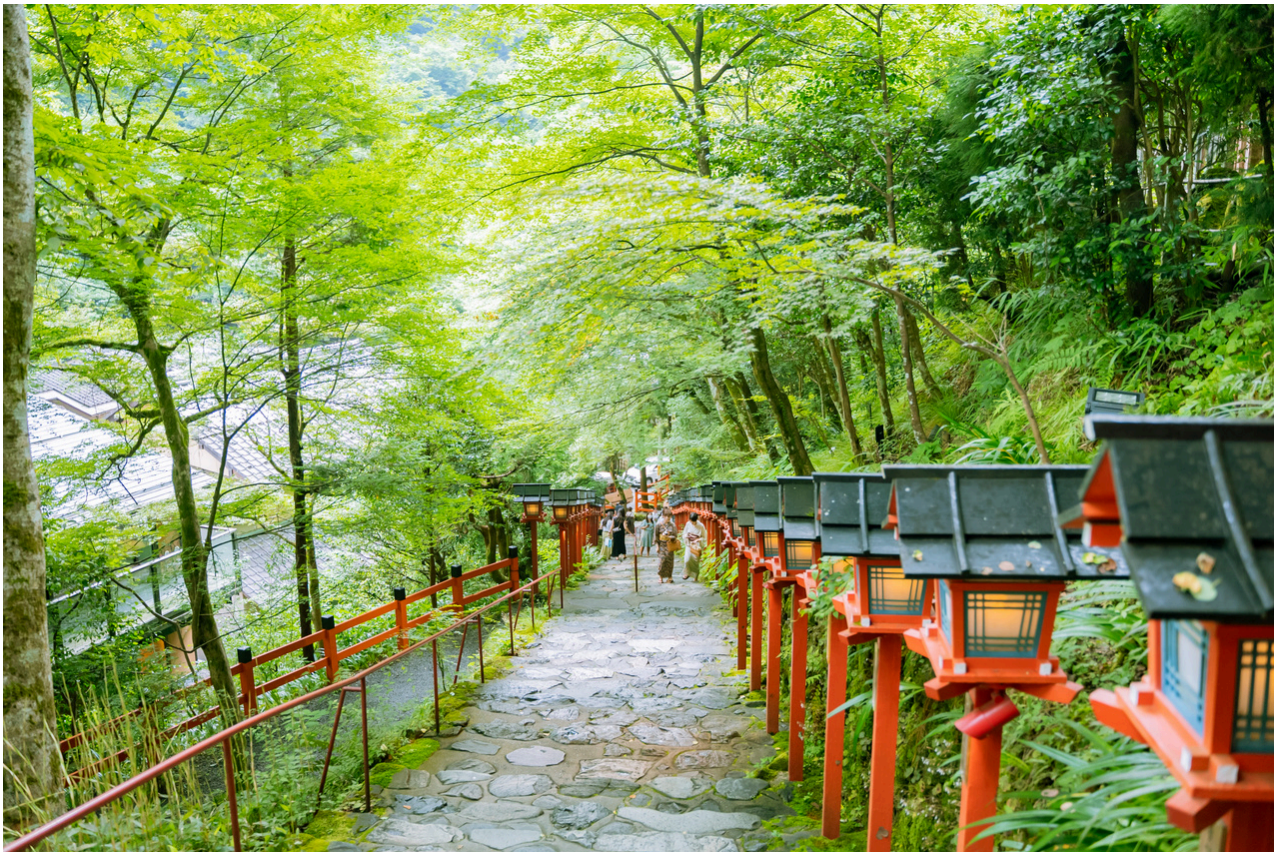
「移動」を「創作」に変える意識

「健康のために一万歩歩かなければ」という義務感だけで歩いてはいませんか？
森村先生は「感受性なき散歩は単なる移動である」と仰いました。

- 何かを見つけようというアンテナを立てるだけで、見慣れた道が「句材の宝庫」になります。
- 道端の名もなき花、窓から漏れる明かり。心が動いた瞬間、あなたは「表現者」になります。

脳は足から活性化する

創作は机で唸るものではありません。外の空気に触れ、光を感じ、歩きながら考えることで、机の前では浮かばなかった言葉がふっと降りてきます。散歩は、自分の中にある「感動の種」を探しに行く、大切なクリエイティブ・タイムなのです。



機材の心得 ― スマホという「魔法の杖」

重い機材はいりません

高価な一眼レフや重い三脚は不要です。機材の重さは「心のフットワーク」を重くしてしまいます。

- スマホなら、感動した瞬間にロックを解除するだけでシャッターが切れます。
- 撮影した場所や時間が記録されるため、後で句を詠む際の大切な記録になります。

森村流・散歩を楽しむ知恵

- 自転車の活用：立ち止まってカメラを向けるのが恥ずかしい時は、自転車がおすすめ。自転車は人間の怪しさを中和する不思議な作用があります。
- 音声メモの活用：良いフレーズを忘れないために、スマホの録音機能やメモ機能を「心の採集箱」として使いましょう。



結びに ― あなたの人生を物語にする

今日からあなたは「表現者」です

このテキストを読み終えた今、あなたの目にはいつもの景色が少し違って見えているはずです。上手く詠もうとする必要はありません。あなたが見た世界、あなたが感じた命の鼓動を、一枚の写真と十七音に託してみてください。

広がる「写真俳句」の愉しみ

作品が生まれたら、ぜひその感動を外の世界へ広げましょう。

- ブログで発表する：自分の作品を一冊のアルバムのように綴っていく喜びがあります。
写真俳句ブログ(<https://shashin-haiku.blog/>)
- 仲間と分かち合う：公式サイトやブログでは、全国の仲間があなたを待っています。SNSや投稿サイトを通じて感想を掛け合うことで、孤独な散歩が「豊かな交流の旅」へと変わります。
- 人生を記録する：どんなに小さく見える日常も、記録しなければ消えてしまいます。あなたの作品は、あなたがこの世界に存在した確かな証(あかし)となるのです。

さあ、あなたの最高の一句をコンテストへ！

「何かを創り出す喜び」を知った人生は、それ以前とは全く別の輝きを放ち始めます。その一歩として、「日本写真俳句大賞にあなたの作品を投じてみませんか。

今回学んだ「三つの魔法」を詰め込んだ作品は、きっと誰かの心を震わせるはずです。完璧な言葉を探す旅そのものを楽しみながら、どうぞ新しい散歩道へ飛び出してください。

【日本写真俳句大賞 応募窓口】

<https://shashin-haiku.org/contest/>



本テキストの著作権は、写真俳句連絡協議会に帰属します。

内容の無断転載・複製を禁じます。

<https://shashin-haiku.org/>

Copyright © 2024 Photo Haiku Association. All Rights Reserved.